

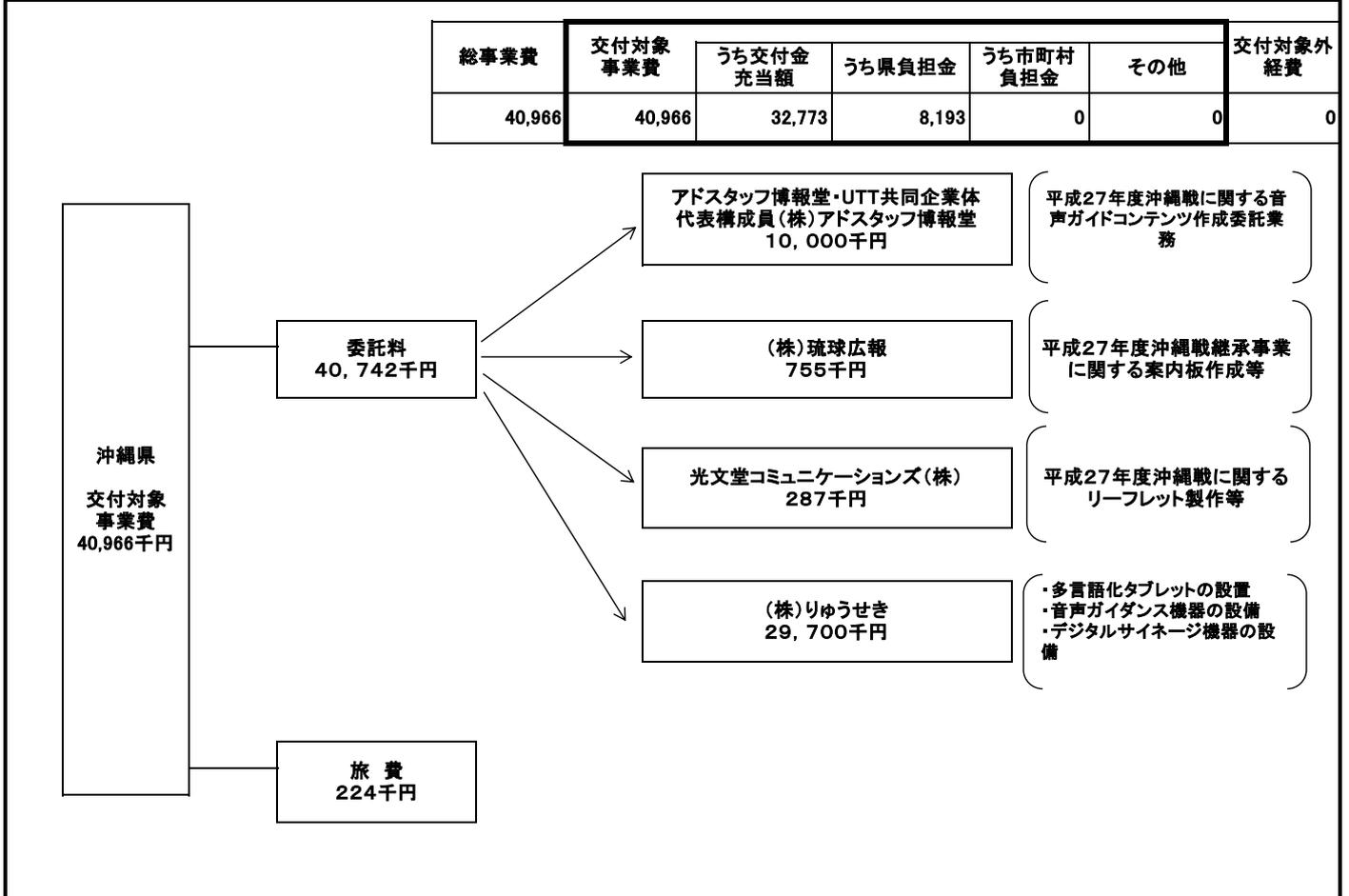
## 平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	47	「沖縄のこころ」平和発信強化事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-4-(2)-7	
担当部課名	子ども生活福祉部平和援護・男女参画課、平和記念資料館	事業実施 (予定)年度	平成	27	年度	施策展開名	
					沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-7	
事業内容	沖縄戦終結から70年が経過する中で、沖縄の「平和の心」を世界に強力に発信し、平和協力外交地域として世界平和に貢献する事業を行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】		25年度	25年度(繰越)	26年度	26年度(繰越)	27年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	0	—	0	0	44,326
		(b) 予算現額	0	—	0	0	44,326
		(c) 増減額 (b-a)	0	—	0	0	0
		(d) 前年度繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計 (b+d)	0	—	0	0	44,326
	B. 執行済額		0	—	0	0	40,966
	うち交付金充当額		0	—	0	0	32,773
	C. 次年度繰越額		0	—	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		—	—	—	—	92.4%
予算の状況の説明		・執行率は92.4%であり、企画コンペの結果、多元語音声ガイダンス等委託料の契約金額が300千円下回ったこと及び案内板やリーフレット作成にかかる経費が、予定より少額で済んだことによるものである。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・学徒隊関係音声ガイダンス作成本数 ・案内板の設置数	目標				・学徒隊関係音声ガイダンス作成(260本) ・案内板の設置(55箇所)	
		実績				・学徒隊関係音声ガイダンス作成(260本) ・案内板の設置(55箇所)	
	・多言語化タブレット設置台数 ・音声ガイダンス機器整備台数 ・デジタルサイネージ機器整備台数	目標				多言語化タブレット(38台) 音声ガイダンス(50台) デジタルサイネージ(2台)	
		実績				多言語化タブレット(38台) 音声ガイダンス(70台) デジタルサイネージ(4台)	
達成状況説明	・当初の計画通り、学徒隊関係音声ガイドコンテンツ260本完成、事業に関する案内板55基、多言語タブレット、デジタルサイネージ及び音声ガイダンスの設置・整備はすべて完了した。 ・2016年3月1日より多言語化タブレット等の稼働や音声ガイダンスの貸出を行っている。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	25年度	26年度	27年度	目標値 (〇〇年度)
	外国人等に対する沖縄戦の理解の促進。 来館者特に外国人に対してアンケートで「沖縄戦」及び「沖縄のこころ」が理解できたかという旨の質問をし、「よく理解できた」等肯定意見70%以上を目指す。	目標				70%	
		実績				65.50%	
		目標					
		実績					
	進捗状況説明	・多言語化タブレットや音声ガイダンス等を設置した後の2ヶ月間の外国人のアンケート結果からは、肯定意見の目標70%に届かなかった。 ・しかし、アンケートに回答した171名のうち、「沖縄のこころ」を理解できなかったのは59名で、その内訳は10歳未満3名、10～19歳4名、90歳以上52名となっており、その他の年代では100%の外国人が理解できたと回答している。このことから、90歳以上の高齢者は多言語に対応したデジタル機器等の取り扱いが容易にできなかった可能性があり、目標は概ね達成できたものと思われる。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄戦終結から70年が経過し、その悲惨な記憶が薄れている中において、沖縄戦の歴史的事実を次の世代へどのように伝えていくかが課題となっている。</li> <li>・沖縄戦体験者の減少や高齢化に伴い、語り部活動が減少している状況がある。</li> <li>・多言語化した音声ガイダンスの使い方や返却の説明、申請書の記入など対応する業務が増え、英語等でわかりやすく説明・対応をする必要性が生じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの人が、音声ガイドコンテンツを視聴できるように、事業を周知していく必要がある。</li> <li>・多言語に対応した取扱マニュアルやチラシ等を作成する事で、わかりやすく説明・対応をする事ができる。</li> <li>・デジタルサイネージにおいては、資料館の魅力をさらにアピールできるよう表示の工夫等を行っていく必要がある。</li> </ul>

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーフレットを配布し、多くの人が音声ガイドコンテンツを視聴できるようにする。</li> <li>・多言語に対応したマニュアルやチラシ等の作成及びデジタルサイネージの表示の工夫等を行って、平和祈念資料館の魅力をさらにアピールしていく。</li> <li>・沖縄県内への外国人観光客が今後とも増加する中、平和祈念資料館をアピールしていくため、展示資料等の多言語化のさらなる充実・強化を図っていく。</li> </ul>

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流れ、費目、点検評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○音声ガイドコンテンツ作成の委託事業者は、企画コンペに参加した事業者3社の中で、2社が同得点であったため、最終的に同点2社でくじによる選定を行ったが、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○多言語音声ガイダンス等委託事業者は、企画コンペ参加事業者4社の中で最も評価の高かった事業者であり、妥当であった。予算規模については、プロポーザルの結果、デジタルサイネージ機器を2台、音声ガイダンスを20台増加することができ、妥当であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものかどうかについて、当初の見積書の提出時及び精算時の書類等で確認し、適正であった。